

若年性初期認知症を知り、よりよく生きる （よりよく支援する）為の連続講座

特定非営利活動法人 コーポラティブハウス木の実
〒939-8063 富山県富山市小杉 262 番地

助成事業の概要

若年性認知症という症状が広く知られるようになり、ご本人は介護保険サービスを利用されるようになりました。しかし、BPSDの激しさに介護家族は疲弊し、介護施設はケアの方法がわからずに戸惑っているのが実情です。ご本人は適切なケアを受けられずに苦しんでいます。

そこで、

・症状に合わせたケアの方法を知ることと、ご本人とご家族が若年性認知症の特徴を知り、今後について考える手がかりを得ることを目的に、ご本人、介護家族、支援者、地域の人たちが参加できる研修会を計画しました。

1. 専門家による認知症を理解するための講座 3回実施する。
2. 認知症の進行の予防及び日々の生活に楽しみを見出すことを目的に音楽療法士による音楽会 月2回 12か月実施する。
3. 認知症の進行の予防及び転倒予防や緊張をほぐしてリラックスすることを目的に理学療法士によるリハビリ教室を月3回 12か月実施する。

事業の成果

1. 専門家による認知症を理解するための講座

①1回目「症状の特徴を知ってサポート」と題して、地域の方・ご本人とご家族・支援者が参加できました。認知症状をきたす疾患と特徴を知ることによって支援のポイントを理解しました。

②2回目「認知症介護を学ぶ」ひとりで悩まず

に」と題して、地域の方・ご本人とご家族・支援者が参加できました。講義の後、ご家族のための講義と個別相談をする時間ができました。

ケアプランへのアドバイスや具体的な接し方等アドバイスを受け、ご家族に笑顔が出てきました。

③3回目「事例検討」と題して、実際に介護保険サービス事業所でケアに困難になっている方の事例を検討できました。参加者はデイサービススタッフや支援者として働いている人、及びご本人と介護家族及び関係者に限定しました。

BPSDの症状として、暴言・徘徊・攻撃性のある女性の事例で、ケアが困難と言われがちな前頭側頭型変性症の症状の方です。ご本人の症状の特性を知り、ご自宅の情報やご本人の経歴を共有し、施設のケアスタッフの考え方をご家族に伝え、家族と施設が共に「ご本人に寄り添う方法を身につけていこう」という内容の事例検討をしました。

事例の介護家族が、初めて自分の辛い胸の内を語り、娘さんが県外から駆けつけて参加していただき両親への思いや、自分の思いを率直に語ってくださいました。施設のケアスタッフも、考え方やケアの内容を全体化し、講師のアドバイスを受けながら本人への理解を深めていきました。

この方は、現在要介護4、BPSDは変わらずにありますが、ご本人に寄り添うケアの糸口の探し方やご本人の様子をひもとき、ご本人が安心できる環境作りやケアの方法をご家族と支援者と施設が、諦めずに検討し続けています。

今回の研修により「学ぶこと」が必要であること、学ぶことでご本人に寄り添うケアの手がかり

がつかめる」ことを知りました。

2. 音楽療法士による音楽会

月2回12か月間の実施は、地域の方にも呼びかけて定期的に実施できました。

自宅に閉じこもりがちな認知症発症初期の方は、外出をするチャンスを得たことと、地域の方と接する機会を持てたこと、音楽の持つ楽しさを体験することが出来、日課に楽しみを持ってました。

この会を通じて「友達ができた、楽しみが出来た」「認知症になっても外に出られることを知った」と言われる方がいらっしゃいました。

この活動は、日本音楽療法士会 信越・北陸支部第14回学術大会 大会シンポジウムで、担当していた音楽療法士 鹿熊千恵子氏により発表されます。

3. 理学療法士によるリハビリ教室

月3回12か月実施できました。当初は、言語療法士によるリハビリも検討していたのですが、脳の変性症による発症の場合の言語療法については、方法や理論がまだ確立されていないという事で、体の緊張をほぐして気持ちを楽にすることで、自分の感性を出しやすくするところから取り組みました。

認知症の本人に限らず介護家族の参加を得ることが出来たことが大きな成果でした。

本人・家族・支援者が一緒に体操をすることで、コミュニケーションや一体感が生まれ、気持ちをほぐして会話が生まれる自然な取り組みができました。

成果の広報、公表

若年性認知症の方は、記憶障害と実行機能障害が早くから症状として現れ、BPSDが激しい精神症状として表出しがちだと言われています。そのため、本人が安心感や喜びを見出すことが出来

るようなケアが困難になりがちですが、本人を知り、症状に合わせた対応を学び、介護家族と支援者や施設が情報を共有化していくことで、ありのままのご本人を受け止めていけるようになることを学びました。少なくとも「ケアを諦めなくていい」ことを学びました。

ともすると、ケアは専門家にしかできないことと思ってしまうがちですが、学ぶことで認知症ケアは怖くないこと、自分にもできることがあること、本人を真ん中に家族と支援者と施設が連携を取り合えば、みんなで認知症の人を支えることが出来ると知りました。

パーソンセンタードケアを目指して、「認知症もやり方次第で何とかなる」ことを知ることが出来ました。

連続講座参加者

- 1 回目連続講座 参加者 30 名（地域の方と支援者、ご本人）
- 2 回目連続講座 参加者 22 名（地域の方と支援者、ご本人）
- 3 回目連続講座 参加者 17 名（地域の方と支援者、ご本人）

音楽療法

1 回参加者16 から 25 人 延 450 人程度

リハビリ教室

1 回参加者14 から 18 人 延 570 人程度

今後の展開

今後は、

1. 平成 28 年度 特定非営利活動法人コーポラティブハウス木の実の年間活動として
 - ①介護家族と地域の方を対象とした「認知症ケア勉強会」の実施。

②介護家族も施設のケアに参加していただき、ご本人を中心にケアの方法や情報交換を共有化していく活動の実施を計画しています。

そのための案内やパンフレットを作成し、ホームページに投稿し広く呼びかけていく方法と、介護家族の方にご本人が利用している施設の活動に参加していただき、一緒にケアにあたったり、情報を共有化していく取り組みを実施していきます。

認知症になっても、地域で自分らしく生きていけるための支援を、ご本人とご家族と支援者が、共に担っていく活動を続けていきたいと思えます。本研修は大変貴重でした。